

日本海ケーブルネットワーク株式会社 (NCN)

2018年度放送番組審議会議事録

■ 日 時：2019年3月7日（木）午後1時半～3時

■ 場 所：日本海新聞本社ビル6階会議室（鳥取市富安2丁目137番地）

■ 出席者

審議委員：河村壮一郎（会長、鳥取短期大学 教授）、佐々木千代子（副会長、いんしゅう鹿野まちづくり協議会理事長）、富山茂（鳥取市情報政策課長）、内川啓二（倉吉市企画産業部企画課長）、松野洋平（岩美町総務課主事＝代理出席）、福田京子（地域づくりネットワーク代表）、藤井博美（三朝区長）、中野卓（鳥取銀行本店営業部次長）、松本光義（岩井地区公民館長）＊役職は当日現在、敬称略、順不同

NCN：西尾広海（常務取締役）、河崎誠（編成制作部長）、中嶋信行（倉吉放送センター長）、荒木淑朗（編成制作部課主任）

■ 報告事項

① 2018年度の取り組みについて

レギュラー番組や特別番組など2018年2月から2019年3月までの番組制作の取り組みを報告した。

② 2019年度の取り組みについて

新年度に向けた取り組み方針を報告した。

■ 協議事項

（委員）

・インフォーマーシャル（通信販売CM）についてももう少し詳しく知りたい情報があった。（CMなのか番組なのか）分かりにくかった。

・NHKの小さな旅が好きで「ぶらり♪」を見ているが、地区をぶらぶらしているだけでピントが合っていない感じがした。地区ごとでテーマがあった方が楽しく見えると思う。15分間の尺だと場面が小刻みで余裕がない感じがした。

・シニア層はNCNを見ている人が多い。大半の意見としてアナウンサーがレポートをしている時は表情が生き生きしているがニュースになると表情が硬い。「部活がんば」の学生レポーターの表情など参考になるのでは。

（事務局）

ぶらり♪については意見を参考に、時間や内容も試行錯誤しながらやっていきたいアナウンサーの表情は本人たちに伝えて改善していきたい。

（委員）

・選挙速報はローカルになると民放などに取り上げてもらえないことがあるので、有権者にとってありがたい。若者にも興味や意識をもってもらえるよう（方法は分からない

が) 取り組んで欲しい。

・倉吉放送センターの放送局見学でボーイスカウトがお世話になった。丁寧な対応で貴重な放送局での体験に子どもたちは喜んでいて。体験後に子どもたちの意識がケーブルテレビに向くようになり、NCNを知る良いきっかけになった。

・しゃんしゃん祭りなど大きな祭だけではなく、地域の小さな祭なども取り上げてほしい。

・地味でも地域の力になっている人や活動にスポットライトをあててほしい。

(事務局)

倉吉放送センターでは多目的スペースで放送体験ができるようになった。学校単位などの利用も周知したい。

(委員)

・去年、岩美町チャンネル(との連携)の要望を出していたが、実現してもらいたい。

・ピカイチの番組構成がよい。

・保育園・幼稚園の発表会・運動会など発信を増やしてほしい。

(事務局)

ピカイチは今後も続けていきたい。

保育園・幼稚園など積極的に取り上げていきたい。

(委員)

・取材してもらっても、いつ放送されるか分かりにくい。

・(祭り中継などで使う)簡易中継機とはどんなものか。

(事務局)

放送内容については現場で案内するようにしているほか、ホームページやツイッターで告知しているが他の方法も含めて改めて徹底する。

簡易中継器は携帯回線を利用した小型の中継機。

(委員)

・NCNで倉吉市の「くらすけちゃんねる」を放送してもらっている。放送前のチェックや指導などをお願いしたい。

・生中継で利用されている簡易中継は行政が災害時をお願いしたら何かできるのか。想定があれば教えてほしい。

・中部圏域はTCC(鳥取中央有線放送)とNCNの連携を引き続きお願いしたい。

(事務局)

TCCとの連携について中部に特化した連携は続けていきたい。

簡易中継機を災害発生時に行政からの要請も必要があれば応えていきたい。

今後も「くらすけちゃんねる」など倉吉市とは協力しながらやっていきたい。

(委員)

・岩美町限定から全エリアでの放送を始めた岩美町トピックスについて、岩美町内に勤務している鳥取市在住者から鳥取に帰ってからも視聴できて助かると声があった。

・岩美町チャンネルの中でも町内の企業紹介などもしていきたい。

(委員)

・NCNが前回の審議会の意見を反映させようとしている姿勢に感心している。

(委員)

・中継を増やしているのは良いことだと思う。中継は事前準備が必要だと思うがNCNは簡易的にやっているように思うがそのことが面白味でもありリスクな気もする。

(事務局)

他局の中継と比較すると、時間や人的に余裕がない部分はあるが大きな放送事故がないよう注意は払っている。災害時に即座に放送対応ができるよう積極的に生中継を増やしている部分もある。

(委員)

・放送された内容がインターネットに投稿されたりするような対策は。

・若者向けにインターネットをもう少し活用してみてもは。

(事務局)

NCNでもYouTubeのチャンネルを既に持ち、「しゃんしゃん祭り」などで活用している。SNSもすでに活用しており、今後は災害が発生した際や番組宣伝に活用できるよう検討したい。

(委員)

NCNで取り上げてもらうと公民館事業に参加する人が増える。

取材でいろいろな配慮をしていただき感心した。

以上